

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第129期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	神姫バス株式会社
【英訳名】	SHINKI BUS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 上杉 雅彦
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市西駅前町1番地
【電話番号】	079(223)1243
【事務連絡者氏名】	企画部長 永井 勝浩
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市西駅前町1番地
【電話番号】	079(223)1243
【事務連絡者氏名】	企画部長 永井 勝浩
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社によるグループ内における内部監査の結果、連結子会社である株式会社ホープ及び株式会社エルテオ（商号変更前 株式会社エルテオ・ホーム）において、同連結子会社元代表者による会社資産の不正な私的流用の疑いがあることが判明しました。

これを受けて、神姫バスグループでは、外部専門家を加えた調査委員会を設置し、本件に関するより詳細かつ正確な事実関係の解明に着手してまいりました。

調査委員会による調査の結果、上記連結子会社の代表者を兼務していた元代表者が、架空工事及び水増し工事を上記連結子会社に発注させて、その工事代金の一部を私的に利用していたことが明らかとなりました。これに伴い、不適切な会計処理の訂正を行う必要が生じたため、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、平成24年2月14日に提出しました第129期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）に係る四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

また、訂正後の四半期連結財務諸表については、新日本有限責任監査法人により改めて四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 経理の状況

##### 2. 監査証明について

##### 1 四半期連結財務諸表

###### (1) 四半期連結貸借対照表

###### (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

###### 四半期連結損益計算書

###### 第3 四半期連結累計期間

###### 四半期連結包括利益計算書

###### 第3 四半期連結累計期間

###### 注記事項

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

（セグメント情報等）

セグメント情報

（1株当たり情報）

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_線で示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第128期 第3四半期連結 累計期間	第129期 第3四半期連結 累計期間	第128期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	30,519	30,030	40,112
経常利益(百万円)	1,204	1,174	1,232
四半期(当期)純利益 (百万円)	880	612	1,393
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	760	584	1,196
純資産額(百万円)	29,968	30,835	30,403
総資産額(百万円)	44,736	45,381	44,723
1株当たり四半期(当期)純利 益金額(円)	29.20	20.31	46.21
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	66.77	67.73	67.76

回次	第128期 第3四半期連結 会計期間	第129期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.23	8.53

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4. 第128期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

(訂正後)

回次	第128期 第3四半期連結 累計期間	第129期 第3四半期連結 累計期間	第128期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	30,519	30,030	40,112
経常利益(百万円)	1,204	1,179	1,234
四半期(当期)純利益 (百万円)	858	561	1,327
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	738	534	1,129
純資産額(百万円)	29,946	30,718	30,336
総資産額(百万円)	44,715	45,269	44,660
1株当たり四半期(当期)純利 益金額(円)	28.47	18.62	44.00
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	66.76	67.63	67.71

回次	第128期 第3四半期連結 会計期間	第129期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.84	7.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第128期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

## 第2【事業の状況】

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(前略)

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災や電力供給不足の影響に加え、欧州の債務危機などを背景とした世界経済の減速や円高の長期化など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで当社グループは、「CSR（企業の社会的責任）活動の更なる推進」と、グループ内外との連携強化や成長分野へのチャレンジを中心とした「21世紀型のグループ経営」に努めてまいりました。CSR活動では、輸送における安全の確保に向け不断の取組みを行うとともに、法令順守と環境対策、CD（顧客感動）活動にも継続的に取り組んでおります。事業面では、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比489百万円（1.6%）減の30,030百万円、営業利益は前年同期比47百万円（4.3%）減の1,065百万円、経常利益は前年同期比30百万円（2.5%）減の1,174百万円となりました。また、四半期純利益につきましては、エコカー補助金や解約保証金等受入益を計上しました前年同期に比べまして268百万円（30.5%）減の612百万円となりました。

(中略)

#### 業務受託

車両運行管理部門は新規契約の獲得等により、介護部門はデイサービスの稼動がアップしたこと等により増収となりました。経営受託部門は施設の大規模修繕に伴う閉館期間があったことなどにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比25百万円（1.2%）増の2,177百万円、営業利益は前年同期比12百万円（5.9%）増の222百万円となりました。

#### 不動産

販売部門は、建物販売戸数は増加しましたものの、分譲地販売区画数が減少したことにより減収となりました。また、特販部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、既存商業施設等の賃貸料減額がありましたものの、新たに取得した賃貸物件が収入の確保に寄与したことにより前年同期並で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比241百万円（8.5%）減の2,598百万円、営業利益は22百万円（2.5%）減の880百万円となりました。

(後略)

(訂正後)

(前略)

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災や電力供給不足の影響に加え、欧州の債務危機などを背景とした世界経済の減速や円高の長期化など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで当社グループは、「CSR（企業の社会的責任）活動の更なる推進」と、グループ内外との連携強化や成長分野へのチャレンジを中心とした「21世紀型のグループ経営」に努めてまいりました。CSR活動では、輸送における安全の確保に向け不断の取組みを行うとともに、法令順守と環境対策、CD（顧客感動）活動にも継続的に取り組んでおります。事業面では、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比489百万円（1.6%）減の30,030百万円、営業利益は前年同期比42百万円（3.8%）減の1,071百万円、経常利益は前年同期比25百万円（2.1%）減の1,179百万円となりました。また、四半期純利益につきましては、連結子会社元役員の不正行為に伴う貸倒引当金繰入額を特別損失として計上したことや、前年同期にエコカー補助金や解約保証金等受入益を特別利益として計上していたこと等により、前年同期比297百万円（34.6%）減の561百万円となりました。

(中略)

#### 業務受託

車両運行管理部門は新規契約の獲得等により、介護部門はデイサービスの稼動がアップしたこと等により増収となりました。経営受託部門は施設の大規模修繕に伴う閉館期間があったことなどにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比25百万円（1.2%）増の2,177百万円、営業利益は前年同期比17百万円（8.4%）増の228百万円となりました。

#### 不動産

販売部門は、建物販売戸数は増加しましたものの、分譲地販売区画数が減少したことにより減収となりました。また、特販部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、既存商業施設等の賃貸料減額がありましたものの、新たに取得した賃貸物件が収入の確保に寄与したことにより前年同期並で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比237百万円（8.4%）減の2,598百万円、営業利益は22百万円（2.5%）減の880百万円となりました。

(後略)

## 第4【経理の状況】

### 2. 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受け、改めて四半期レビュー報告書を受領しております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,108	6,357
受取手形及び売掛金	1,639	1,761
未収運賃	736	529
有価証券	110	120
商品及び製品	373	409
仕掛品	67	153
分譲土地建物	1,078	843
原材料及び貯蔵品	103	100
その他	1,608	1,169
貸倒引当金	10	11
流動資産合計	12,815	11,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,148	23,143
減価償却累計額	14,923	15,303
建物及び構築物(純額)	7,225	7,839
機械装置及び工具器具備品	2,580	2,616
減価償却累計額	2,134	2,149
機械装置及び工具器具備品(純額)	446	466
車両運搬具	12,553	12,216
減価償却累計額	10,645	10,773
車両運搬具(純額)	1,907	1,443
土地	14,965	16,218
リース資産	2,549	3,093
減価償却累計額	794	1,183
リース資産(純額)	1,754	1,909
建設仮勘定	16	442
有形固定資産合計	26,316	28,320
無形固定資産		
のれん	62	53
その他	201	205
無形固定資産合計	263	258
投資その他の資産		
投資有価証券	2,910	2,885
その他	2,458	2,528
貸倒引当金	40	46
投資その他の資産合計	5,327	5,367
固定資産合計	31,907	33,946
資産合計	44,723	45,381



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,018	1,105
短期借入金	309	1,279
1年内返済予定の長期借入金	461	382
リース債務	490	594
未払金	2,427	2,779
未払法人税等	871	199
事故補償引当金	15	15
賞与引当金	858	522
過年度雑収計上旅行券引当金	13	13
その他	1,798	1,765
<b>流動負債合計</b>	<b>8,263</b>	<b>8,656</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,362	1,131
リース債務	1,348	1,409
退職給付引当金	543	591
役員退職慰労引当金	338	119
負ののれん	6	4
その他	2,457	2,632
<b>固定負債合計</b>	<b>6,056</b>	<b>5,888</b>
<b>負債合計</b>	<b>14,319</b>	<b>14,545</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	24,640	25,102
自己株式	415	416
<b>株主資本合計</b>	<b>29,600</b>	<b>30,060</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	705	675
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>705</b>	<b>675</b>
少数株主持分	97	100
<b>純資産合計</b>	<b>30,403</b>	<b>30,835</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>44,723</b>	<b>45,381</b>

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,108	6,357
受取手形及び売掛金	1,639	1,761
未収運賃	736	529
有価証券	110	120
商品及び製品	373	409
仕掛品	67	153
分譲土地建物	1,078	843
原材料及び貯蔵品	103	100
その他	1,608	1,169
貸倒引当金	10	11
流動資産合計	12,815	11,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,106	23,101
減価償却累計額	14,923	15,301
建物及び構築物(純額)	7,183	7,799
機械装置及び工具器具備品	2,580	2,616
減価償却累計額	2,134	2,149
機械装置及び工具器具備品(純額)	446	466
車両運搬具	12,553	12,216
減価償却累計額	10,645	10,773
車両運搬具(純額)	1,907	1,443
土地	14,944	16,197
リース資産	2,549	3,093
減価償却累計額	794	1,183
リース資産(純額)	1,754	1,909
建設仮勘定	16	392
有形固定資産合計	26,253	28,209
無形固定資産		
のれん	62	53
その他	201	205
無形固定資産合計	263	258
投資その他の資産		
投資有価証券	2,910	2,885
その他	2,525	2,650
貸倒引当金	108	168
投資その他の資産合計	5,327	5,367
固定資産合計	31,845	33,835
資産合計	44,660	45,269

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,018	1,105
短期借入金	309	1,279
1年内返済予定の長期借入金	461	382
リース債務	490	594
未払金	2,427	2,779
未払法人税等	871	202
事故補償引当金	15	15
賞与引当金	858	522
過年度雑収計上旅行券引当金	13	13
その他	1,801	1,768
<b>流動負債合計</b>	<b>8,267</b>	<b>8,663</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,362	1,131
リース債務	1,348	1,409
退職給付引当金	543	591
役員退職慰労引当金	338	119
負ののれん	6	4
その他	2,457	2,632
<b>固定負債合計</b>	<b>6,056</b>	<b>5,888</b>
<b>負債合計</b>	<b>14,324</b>	<b>14,551</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	24,573	24,984
自己株式	415	416
<b>株主資本合計</b>	<b>29,533</b>	<b>29,943</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	705	675
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>705</b>	<b>675</b>
少数株主持分	97	100
<b>純資産合計</b>	<b>30,336</b>	<b>30,718</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>44,660</b>	<b>45,269</b>

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	30,519	30,030
売上原価	22,860	22,312
売上総利益	7,658	7,718
販売費及び一般管理費	6,545	6,652
営業利益	1,113	1,065
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	33	41
持分法による投資利益	9	14
その他	97	112
営業外収益合計	157	184
営業外費用		
支払利息	24	17
固定資産除却損	24	20
その他	16	37
営業外費用合計	66	75
経常利益	1,204	1,174
特別利益		
路線維持費補助金等	33	6
運行補償金	291	104
解約保証金等受入益	457	-
特別利益合計	782	111
特別損失		
固定資産圧縮損	83	1
減損損失	212	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	-
特別損失合計	405	1
税金等調整前四半期純利益	1,582	1,284
法人税等	699	669
少数株主損益調整前四半期純利益	883	615
少数株主利益	2	2
四半期純利益	880	612

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	30,519	30,030
売上原価	22,860	<u>22,306</u>
売上総利益	7,658	<u>7,723</u>
販売費及び一般管理費	6,545	6,652
営業利益	1,113	<u>1,071</u>
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	33	41
持分法による投資利益	9	14
その他	97	112
営業外収益合計	157	184
営業外費用		
支払利息	24	17
固定資産除却損	24	20
その他	16	37
営業外費用合計	66	75
経常利益	1,204	<u>1,179</u>
特別利益		
路線維持費補助金等	33	6
運行補償金	291	104
解約保証金等受入益	457	-
特別利益合計	782	111
特別損失		
固定資産圧縮損	83	1
減損損失	212	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	-
貸倒引当金繰入額	<u>21</u>	<u>54</u>
特別損失合計	427	55
税金等調整前四半期純利益	1,560	1,235
法人税等	699	671
少数株主損益調整前四半期純利益	861	564
少数株主利益	2	2
四半期純利益	858	561

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	883	615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	121	29
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	122	30
四半期包括利益	760	584
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	758	582
少数株主に係る四半期包括利益	2	2

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	861	564
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	121	29
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	122	30
四半期包括利益	738	534
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	736	531
少数株主に係る四半期包括利益	2	2

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(訂正前)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	1,734百万円	1,655百万円
のれんの償却額	-	9
負ののれんの償却額	1	1

(訂正後)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	1,734百万円	1,653百万円
のれんの償却額	-	9
負ののれんの償却額	1	1

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販 ・整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,146	3,266	2,120	2,558	6,862	29,953	566	30,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	60	1,423	30	282_	144	1,942	406	2,348
計	15,206	4,689	2,151	2,840_	7,007	31,896	972	32,868
セグメント利益又はセ グメント損失( )	296	257	210	902	42	1,116	28	1,145

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備等を含んでおります。

(中略)

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販 ・整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	14,947	3,336	2,144	2,303	6,706	29,438	592	30,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	59	1,404	32	295	139	1,932	395	2,328
計	15,007	4,741	2,177	2,598	6,845	31,370	988	32,358
セグメント利益又はセ グメント損失( )	233	223	222	880	16	1,075	9	1,085

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,075
「その他」の区分の利益	9
セグメント間取引消去	19
四半期連結損益計算書の営業利益	1,065



(訂正後)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販 ・整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,146	3,266	2,120	2,558	6,862	29,953	566	30,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	60	1,423	30	278	144	1,937	406	2,344
計	15,206	4,689	2,151	2,836	7,007	31,891	972	32,864
セグメント利益又はセ グメント損失( )	296	257	210	902	42	1,116	28	1,145

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備等を含んでおります。

(中略)

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販 ・整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	14,947	3,336	2,144	2,303	6,706	29,438	592	30,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	59	1,404	32	295	139	1,932	395	2,328
計	15,007	4,741	2,177	2,598	6,845	31,370	988	32,358
セグメント利益又はセ グメント損失( )	233	223	228	880	16	1,081	9	1,090

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,081
「その他」の区分の利益	9
セグメント間取引消去	19
四半期連結損益計算書の営業利益	1,071

(1株当たり情報)

(訂正前)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	29円20銭	20円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	880	612
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	880	612
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,164	30,158

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	28円47銭	18円62銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	858	561
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	858	561
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,164	30,158

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月14日

神姫バス株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 荒井 憲一郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 博信 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神姫バス株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神姫バス株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年2月14日に四半期レビュー報告書を提出した。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。